

ぱちんこ 言葉物語

⑦

中段チェリー

今回の言葉物語は、パチスロの中で最も進化したと言える「中段チェリー」に焦点を当ててみたいと思います。

パチスロでチェリーと言えば、最も払い出し枚数が少ない役であり、通常時における払い戻し率を一定にする役割を持つ役として、パチスロとしてはほぼ必ず搭載されている小役です。

その中でも中段チェリーは主に左リール中段だけにチェリー図柄が停止し、最も払い出し枚数が少なく、今のパチスロで言う「リプレイ(実質3枚払い出しと同じ)」よりも払い出し枚数が少ないただの小役として扱われてきました。

小役から 当倍返しへ

ところが、徐々にその役割に変化が現れ始めます。ボーナス成立後の当倍返し(ボーナスが揃えられずにコインが減っ

てしまうことを救済する措置)の機能に、チェリーを用い始めてきます。

代表的なものとしては1989年に登場したニイガタ電子の2号機「アラジン」や、1990年登場した瑞穂製作所の3号機「コンチネンタルI」などです。仕組みとしては、通常2リールまたは3リールで揃う「連チェリー」が、ボーナス等成立後は当倍返し制御に変更、払い出し枚数の少ない1



「コンチネンタルI」最強の1リールボーナス確定目「中段チェリー」。究極の機能美といえるデザインは現代でも全く色あせない。



累計販売台数何と62万台。その後の小役の役割の方向性を決定付けた2003年登場の「北斗の拳」©武論尊・原哲夫, ©sammy

リールや2リールでのチェリー成立が多くなります。すなわち通常での払い出し法則が崩れる事によるリーチ目を作り出すというものでした。

その後4号機時代以降になると、中段チェリーは徐々にその役割を大きく変えてきます。決定的となったのは4号機時代での「北斗の拳」における中段チェリーでしょう。立時で4分の1から100%でバトルボーナス(AT)が当選するレア小役として採用。それ以降から中段チェリーは出玉を左右するレア小役やプレミアム小役として一気に採用が拡大されることになりました。

「65536分の1」も

そして5号機時代になるとその方向性は決定的なものとなり、中段チェリーはプレミアム役として多くの機種で「一度は引きたいプレミアム」の代表格としての扱いとなり、確率の低いものでは65536分の1という超プレミアム役として「引く達成感」の頂上の役割を担う機種もあります。このように単なる出率調整役としてデビューした中段チェリーですが、時代を経るに従い超プレミアム役として大出世をすることになりました。

「大出世」一度は引きたい

著作権ものではプレミアム演出による「引いた達成感」を味わうことはできませんが、昨今のパチスロではリール制御の関係からどうしても出目は単調にならざるを得ません。その中でチェリーはその時代ごとの枠組みの中で進化を遂げてきました。

パチンコもパチスロも今における作り方においては勝者と呼べる人の割合は昔に比べてずっと少なくなるようなスペックになっていることはご存知の通りですが、その中でもユーザーに満足感や達成感を与えることができる数少ないことの一つとして末永く残してもらいたいものです。(大和田敏男)



ジャグラーでも中段チェリーはビッグボーナス確定役として存在。写真のマイジャグラーIIにおける中段チェリーの確率は約3276分の1。©KITA DENSHI



パチスロ化物語の中段チェリー。役としての恩恵はそれほど多くないが超プレミアム役の代表格。確率はなんと65536分の1。©西尾維新 / 講談社・アニプレックス・シャフト, © sammy